

## 第 37 回ユネスコ総会 教育関係議論の概要報告

1. 第 37 回ユネスコ総会が平成 25 年 11 月 5 日から 20 日までユネスコ本部で開催されたところ、教育関係の議論は以下の通り。

## 2. 国内委員会会議（11 月 4 日）

ポスト 2015 年開発アジェンダへの国内委員会の貢献、若者に焦点を置いた国内委員会活動を議題に議論されたが、我が国からは、ユネスコがポスト 2015 年アジェンダにおける教育のあり方について明確なビジョンを示すこと、その中で ESD を明確に位置づけることなどを述べた。

## 3. 教育委員会（11 月 7 から 9 日）での主要議題に関する議論

## (1) 2015 年より後の教育

5 か国の閣僚級出席者及び二つの NGO からなるパネルディスカッションの後、事務局側から、ポスト 2015 年教育アジェンダに対する考え方及びその策定のプロセスについて包括的に示された。加盟国からは、ユネスコの「2030 年までに平等で質の高い教育と生涯学習を保障する」という提案を評価するとともに、ポスト 2015 年開発アジェンダにおいても、ユネスコが引き続き教育の主導機関として役割を果たすことに期待する発言があった。我が国からは、ユネスコの提案に賛同しつつも、内容についての議論が不十分であることを指摘するとともに、ポスト 2015 年開発アジェンダの中のこのような広範な目標が反映されるとは予断できぬため、ポストダカール行動目標に相当する枠組みを作成するよう提案。第 194 回執行委員会で本日の議論のフォローアップと進捗状況についての報告を求めた結果、2015 年までの各執行委員会に進捗状況を事務局が報告するというラインでコンセンサスがなされ、決議に反映された。

ユネスコとしては、引き続きポスト 2015 年開発アジェンダへの教育の位置づけに注力し、ダカール行動枠組みのような独立した教育の枠組みを作るかどうかというフォーマットの問題は、今後検討する旨説明があった。

## (2) ポスト 2014 年の国連 DESD のフォローアップ グローバル・アクション・プログラム

ポスト 2014 年の国連 DESD のフォローアップとしての ESD グローバル・アクション・プログラム (GAP) が決議された。GAP は、2014 年の第 69 回国連総会で採択される予定である。

決議に当たって我が国から、2015 年以降も ESD がより一層推進されるためには、各国における政治的支持が不可欠であり、「ESD に関するユネスコ世界会議」に閣僚等ハイレベルの参加を促すべき旨を発言し、決議に盛り込まれ

た。また、ドイツ、スウェーデン、タイ、ロシア、韓国他多くの国から我が国が来年の世界会議をホストすることへの感謝の意とともに、2015年以降の取組としてGAPに期待する旨の発言があった。(また、スウェーデンから持続可能な生産と消費についてのプログラムとの連携の重要性について発言があり、決議に盛り込まれた。)

**(3) 高等教育の資格証書の承認についてのグローバルな規範設定制度の妥当性に係る技術的及び法的側面に関する予備的研究**

事務局より高等教育の資格証書の認証についてのグローバルな規範設定制度の妥当性に係る技術的及び法的側面に関する予備的研究を提出し、高等教育において国境を越えたグローバルな動きが進展する中、国際的な規範が重要であるとの認識が示された。ノルウェーを始めとしたほとんどの国が、グローバル条約の策定を支持したが、我が国とドイツは各国・地域における高等教育制度の相違や、資格の承認に係る制度の発展の差が大きい現状を鑑み、本規范文書は勧告等法的拘束力を伴わない形式が適当であると決議案の修正を主張した。その後、日本、ドイツ、米国、ノルウェーで構成される小グループのまとめた条約を目指したプロセスを開始することを始めることを認める決議案についてコンセンサスを得て、採択された。今後、事務局で検討し、条約を策定するかどうかは、2年後の次期総会で決定される予定。

(了)

## 第 37 回ユネスコ総会における ESD 関連行事

### ■ 「ESD に関するユネスコ世界会議」に関する閣僚級朝食会

- (1) 日 時 平成 25 年 11 月 8 日(金) 8:00～9:30
- (2) 場 所 7 階 レストラン(フォントノワ庁舎)
- (3) 主 催 日本政府、ユネスコ
- (4) プログラム ボコバユネスコ事務局長開会挨拶

門司ユネスコ日本政府代表部特命全権大使挨拶

上野文部科学大臣政務官が日本における ESD の取組等を紹介

その後、アラブ首長国連邦、カナダ、クウェート、ケニア、スウェーデン、セーシェル、中国、ナミビア、南アフリカ、バルバドス、バングラデシュの閣僚級出席者のほか、インド、オランダ、韓国、コスタリカ、サウジアラビア、デンマーク、ドイツ、ベトナム、モロッコ、ロシアから各国の ESD の位置付け、取組等の発言があった（全体で 22 か国 50 名(12 か国閣僚級含む)参加）。

また、愛知県代表者(飯吉中部大学総長)及び大森岡山市長による ESD ユネスコ世界会議参加への歓迎スピーチがあった。



なお、11 月 7 日(木)昼には、ESD ユネスコ世界会議開催地自治体の大村愛知県知事、大森岡山市長出席のうえ、ユネスコ本部正面玄関ロビーにて、世界会議の啓発ミニイベントが行われた。同日夜には、両自治体首長に加え、ボコバユネスコ事務局長、門司ユネスコ日本政府代表部特命全権大使の出席のもと PR レセプションも開催された。